



おじさんズ通信

2023年8月号 (No.33)

発行元：登別市新生町

桃柿通 緑風舎

発行者：おじさんズ3号



発行は毎月15日頃。バックナンバーは「おじさんズ」のホームページでどうぞ

8月15日
発行日

月下のかなしみ

桂木 純平

月はどっちだ
暮れなすむ四月の空に
道しるべを探していた

月はこっちさ
弓張月の肩先で
金の星が指し示した

世界は半分 憎しみに満ちている
もう半分には 透明な不安が潜んでいる

残照のはるか向こう側
ブリアン草の海原に陽が昇るころ
目を覚ました砲弾が、穀倉地帯の土塊を
吹き飛ばし、
いのちの消滅戦に狂奔する

「人類の歴史は戦争の歴史だ」
セバスチャン・サルガドの述懐は
苦々しくも証明された。
この世紀に至って、なお。

そして、誰かがいう。
ひとの歴史は彼我の境で
意図して生み出される差別の歴史だ
戻り帰れない距離と時間を
月あかりの下で測っていると
地上をひと回りしても拭いきれない
かなしみが湧き続けた

上の詩の作者名は私の第三の PenName です。「あの顔と、この名前は一致しない」と、いぶかる方もごさいしょうが、そこは大目に…ご容赦を。今月発行の「文芸のぼりべつ」42号に投稿しました。

歴史道・Ⅱ

鷺別学田とは、歴史的地名遺産かも

「学田」という言葉を、ご存じでしょうか。以前から、この2文字に興味を抱いてきましたが、その意味するところを深くは知りませんでした。

自分が住む登別市内で、「学田」の文字がつく場所や地域が2つあります。ひとつはJR鷺別駅近くの「鷺別学田通り踏切」、もうひとつは、通称「学田通り」で、登別市のホームページによると「一級市道・鷺別学田路線」が正式名称のようです。

この道、市役所の道路台帳簡易閲覧サイトでなぞると、鷺別公民館前から、美蘭町の自動車学校前を通り、高野台丘陵地沿いの若草町、新生町住宅地を抜け、亀田公園入口交差点を更に直進して富岸町へ。富岸神社前から富岸川沿いに進み、国道36号との交点までが全ルートでした。距離を測ってみると約5km弱、徒歩だと1時間ちょっとの長さ一と、距離計測お助けサイトは弾き出しています。ということは、この道路から海側の土地はすべて学田だったのか？ 先月号で紹介した鷺別～室蘭港の、武士とアイヌが開いた里道とともに、創作の題材になりそうなので調べてみました。



明治15年に「学田の規則」制定

市史「ふるさと登別」などによると明治期、学校を維持運営するための開拓使からの補助金が乏しいため「国の土地貸してやるから、オメ工達そこで作物作り、学校運営のカネ生み出せ」ということに。明治15年に「学田の規則」が制定され、2年後に土地の付与が始まったとあります。富良野市にあるJR学田駅はその名残で、北大の第8農場がありました。

登別では明治25年にワシベツライバに荒地2万坪の幌別学田を20カ年借用したいと願い出て国の許可を得たとあります。場所を特定するのは難しいのですが、推定されるのはやはり鷺別町から富岸にかけての一带のどこかで、学校田が営まれていたのでしょう。

今でこそ、道道上登別室蘭線が繁華街を貫いていますが、明治期、富岸川は鷺別側に大きく蛇行し、低湿地帯を形成していたとか。コメを作っていたのか、芋か、大根か、お金になったのか？ なぞは多々です。

伊達のNPOに脱帽

7月某日、オドリコソウを見ようと家族で、伊達市の野草園に出かけました。そして驚かされたのが、庭園を整備するボランティア団体のパワーでした。百種類はあろうかと思われる草花や木々の名称、開花期や繁茂期の写真、解説をまとめた看板が、ご丁寧にそれぞれに設置されていたのです。

「印刷するだけでも、かなりの費用と労力が…」

もちろん、活動のメインは花木の手入れや下草刈りなどでしょうが、根気強く続けてきた「NPO 森・水・人ネット」に、脱帽するばかりでした。



オドリコソウに似た
我が庭のラミウム

それらの感想を、同ネットに参加しているおじさんズ2号ことSさんに手紙で伝えると、数日後、面識のない代表のKさんから、「過分なおほめを頂きました事、嬉しく拝見」との手紙と会報が郵送されてきました。活動日にSさんが、私の手紙と「おじさんズ通信」を披露したとか。

これぞ“人ネット”が生み出す、新たなコネクションでしょうか。読者が一人、増えました。

ショック・ドクトリン 進行中

①ショックな事件（災害、クーデター、戦争など）が起きる②国民がショックで思考停止する③「緊急事態」を理由に憲法や法律を無視して新自由主義（規制緩和・民営化・社会保障切り捨てなど）政策をどんどん入れる④政府とお友達企業がダイナミックに儲ける。（「堤未果のショック・ドクトリン『第一章 マイナンバーという国民監視テク』より」

シカゴ大学の経済学者によって生み出されたこの手法が「ショック・ドクトリン」。カナダのジャーナリストが「惨事便乗型資本主義の正体を暴く」の副題で2011年に出版し、大きな反響が。



そして日本では一。東日本大震災、新型コロナパンデミック、ウクライナ戦争などが、それにあたると堤さんは指摘しています。

ポイント付与やコマーシャルに1兆8千億円もの税金を投じてマイナカードを普及させようとする目的は、ズバリ国民の個人情報をも1カ所に集めること。

「日本人が知らない世界のマイナンバー事情」「マイナ保険証はここがあぶない」など、各節の題を見るだけで興味を呼ぶ一冊です。ぜひ、ご一読を。

団塊世代のずん胴ポスト

全国に17万5千カ所余ある郵便ポストのうち、1カ月間の投函数30通以下は25%とか。まあ、日本郵便の大幅削減に向けた事前通告でしょうか。

ひょっとすると登別市内では、ここ1か所だけかも知れない丸型ポストが、登別東町のセイコーマート前にあります。この鉄製タイプ、昭和24年に全国デビューしました。それを聞いたら、同じ団塊の世代同士だけに愛着がわくものです。四角い新世代型に替えないのは、ここセコマ店主で地元商店会のボスのこだわりとか。



ならばと先月、「おじさんズ通信」7月号を5通、ここで投函しました。ささやかな利用率アップへの貢献。ずん胴ポスト、生き残れよ！

art scene art scene

告

秋の影絵アート準備中



影絵師 パンクシー
わが家の庭に参上？

薫風 烈風

▶朝、一番先に新聞に目を通す私とカミさんの会話。
「きょうは、いい記事あった？」
「ないね」
「そう……スカだね」

懐かしいね〜。付箋紙サイズの紙の先っちょをペロリなめると浮き出てくる、あの文字。もちろん、「当たり」の確率は1割、それとも0.5割？

一説には「肩透かし」が語源で、大阪の駄菓子屋さんが考案したとか。当地方では40年前にお店から姿を消したようだが、新聞紙面だけは読者をうならせる「アタリ」を多く載せてチョウダイ。

▶マイナ保険証で、すぐに思い浮かぶのは、高齢者や認知症の人々には入力に難しい暗証番号。「そのため、政府は暗証番号の設定が不要なマイナンバーカードを検討しています」と広報しているから、何を今さら。そんなこと、始める前から分かっている話。15歳以下には、「法定代理人に暗証番号を設定していただきます」だと。法定代理人ってだれ？ともあれ、腹立て過ぎるとストレス倍増、皆さん、お元気で〜。

